

サイコロ型IoTデバイスによる現場作業工数把握の省力化

現場作業に関する情報をサイコロ型IoTデバイスで収集し、現場作業の工数実態の把握を支援します。

現場作業の工数実態を把握することで、作業効率化によるコスト削減や人員割り当て計画の高精度化による人員の有効活用が期待されています。誰でも使えるIoTタグを内蔵した電子サイコロで、現場作業の内容や時間を記録。作業実態の見える化を行うことで、生産プロセスの改善を支援します。


 製造業

課題

Challenges

現場作業の工数実態を把握することが困難

- 作業内容や時間を現場作業者に紙やシステム入力させているが、記録が不正確で実態の把握が困難。
- IT操作に不慣れな作業員や日本語がわからない外国人作業員へのシステム対応ができない。
- 工数把握のためのスマートデバイス導入やネットワーク整備など、初期導入や操作教育によるコストの負担が大きい。

ソリューション

Solutions

誰でも使える電子サイコロで現場作業を管理

IoTタグを内蔵した電子サイコロの向きで、現場作業の内容や時間を管理。サイコロ型IoTデバイスからのセンサー情報を、PCに接続されたIoTルータが取得・集約し、作業実態の見える化を行うことで、工数削減を支援します。

特長

Features

生産プロセスの改善支援ノウハウ

- 3つのノウハウで、生産プロセスの改善を支援します。
- 誰でも使える電子サイコロで、現場の作業内容や作業時間を測定するノウハウ
- きめ細かい工数実態の把握に基づく、生産プロセスの改善を支援するノウハウ
- 安全管理や就業管理を支援するノウハウ

効果 Outcomes

- システムに不慣れな作業員などを含めた、現場作業の工数把握の実現。
- 紙への記入やシステム入力など、作業工数を把握するための手間の省力化。
- 作業実態の把握に基づくプロセス改善による生産コストの削減。

サイコロ型IoTデバイスによる現場作業工数把握の省力化

現場作業に関する情報をサイコロ型IoTデバイスで収集し、現場作業の工数実態の把握を支援します。

